

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 25 日現在

機関番号：12101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2023

課題番号：17K02838

研究課題名（和文）日本社会における外国人と日本人の異文化相互理解に関する質的実証研究

研究課題名（英文）A Qualitative Study on Attitudes toward Multicultural Conviviality among Foreigners and Japanese in the Japanese Society

研究代表者

安 龍洙（An, Yongsu）

茨城大学・全学教育機構・教授

研究者番号：80361286

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、日本人と外国人双方の異文化理解について質的に検証した。外国人については、留学生の留学観からみた異文化理解、留学生の異文化理解、サブカルチャーからみた異文化理解、アルバイトからみた異文化理解、オンライン授業を通しての異文化理解、COVID-19感染拡大下の異文化理解について調べ、それぞれ論文発表をした。日本人については、海外留学観、外国のサブカルチャーからみた異文化理解、COVID-19感染拡大下の異文化理解について調べ、それぞれ論文発表をした。このように、外国人と日本人双方の異文化理解について質的に多角的に捉え、異文化相互理解の一端を解明することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、外国人と日本人双方の異文化理解について質的に多角的に捉え、異文化相互理解の一端を解明することができた。本研究で採用したPAC分析は、被験者が自由に自発的に項目を作り出し、それに基づいて自らが反応するため、個々の被験者の内面世界について認知的・情意的観点から捉えることができる。そのため、研究成果は、「個人」「学校」「地域」における効果的なグローバル人材育成のための異文化理解教育内容の設計と改善に具体的かつ実践的な示唆を与え、異文化コミュニケーション・トレーニング実践のための基礎資料として活用できると考える。

研究成果の概要（英文）：This study examined qualitatively the cross-cultural understanding of both Japanese citizens and foreigners. In the foreigner group cross-cultural understanding of study abroad as such, as well as cross-cultural understanding in foreign students, cross-cultural understanding of subculture, cross-cultural understanding of part-time jobs, cross-cultural understanding through online classes, and cross-cultural understanding under the spread of COVID-19 infection were examined and published as separate papers. In the case of Japanese students, their perspectives on studying abroad, cross-cultural understanding of foreign subcultures, and cross-cultural understanding under the spread of COVID-19 infection were examined and described in separate papers.. In this way, we were able to gain a qualitative and multifaceted view of cross-cultural understanding of both foreigners and Japanese, and to elucidate some aspects of mutual cross-cultural understanding.

研究分野：日本語教育

キーワード：外国人 日本人 日本社会 異文化観 異文化理解 認知的・情意的観点 PAC分析 質的研究

1. 研究開始当初の背景

日本では外国人労働者の受け入れが年々増加しており、日本政府は外国人留学生の日本国内の就職率を現在の3割から今後5割まで引き上げる方針を打ち出している。そのため、今後も日本に在住する外国人が増加することが予想されており、日本社会における日本人と外国人との異文化相互理解の重要性がますます高まっている。このような状況下で、異文化間教育の観点から日本人・外国人双方の相互理解の深層構造を探り「多文化共生社会」に関わる諸問題を複眼的に検証することは喫緊の課題である。

筆者はかつて留学生として日本の大学で学び、現在は留学生担当教員として指導に当たっている。筆者自身の日本における異文化体験と留学生担当教員としての指導経験から「日本社会における外国人と日本人の異文化相互理解の実態と問題点」について強い関心を持っている。また、筆者の日本在住経験を異文化理解の観点から「日本社会」の異文化理解には共通した順序性や規則性が存在することに気づかされ、外国人・日本人個々人の相互理解の実態を質的に検証することは双方の異文化教育、ひいては日本の多文化共生社会の実現に資すると確信するに至った。

2. 研究の目的

本研究では日本社会における「外国人」と「日本人」の異文化相互理解の実態とその特徴について認知的・情意的な観点から質的に検証し、外国人と日本人の相互理解のあり方について検討する。それによって「個人」「学校」「地域」における異文化コミュニケーション・トレーニング実践のための基礎資料を提供することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、過去2件の科研費研究(課題番号:「20520456」「24520566」)の研究成果を踏まえながら、「日本人と外国人がともに暮らす日本社会」に焦点を当て、両者の異文化相互理解の実態と問題点についてPAC分析を用いて質的に検討する。本研究で採用するPAC分析は、内藤(2002)が開発したもので、1)当該テーマに関する自由連想、2)連想項目間の類似度距離行列によるクラスター分析、3)被験者によるクラスター構造の解釈、を通じて個人別に態度構造を分析する方法である。つまり、PAC分析は被験者が自由に自発的に項目を作り出し、それに基づいて自らが反応するため、被験者の自発性・自律性が最大限尊重され、個々の被験者の内面世界について認知的・情意的観点から捉えることができる。

4. 研究成果

本研究では、日本人と外国人双方の異文化理解について質的に検証した。外国人については、(1)日本留学観からみた異文化理解、(2)交換留学生の異文化理解、(3)サブカルチャーを通しての異文化理解、(4)アルバイトからみた異文化理解、(5)オンライン授業及びオンライン研修を通しての異文化理解、(6)COVID-19感染拡大下における異文化理解についてそれぞれ質的に検討した。日本人については、(1)海外留学観からみた異文化理解、(2)外国のサブカルチャーを通しての異文化理解、(3)外国観からみた異文化理解、(4)オンライン授業及びオンライン研修を通しての異文化理解、(5)COVID-19感染拡大下における日本人の異文化理解についてそれぞれ質的に検討した。

4-1. 日本社会における外国人の異文化理解

(1) 日本留学観からみた異文化理解

日本留学観からみた異文化理解では、東欧出身短期留学生は、日本人学生は外国人との交流に消極的だが、外国人に親切で困った時には助けてくれるという複雑な異文化観を有していることが分かった。韓国人を対象にした留学観の縦断調査では、来日前に抱いていた自然災害、異文化環境への適応問題、言葉や文化の違いによる不安等が来日後に解消されていく様子が窺えた。中国人短期留学生は、本音を言わない日本人、親切で優しい日本人等の先行研究と同様の異文化観を有していることが分かった。

(2) 交換留学生の異文化理解

交換留学生の異文化理解では、英語圏交換留学生は、日本社会での共生を模索していることが示唆された。中国人交換留学生は日本留学前はステレオタイプの日本像を持っていた者もいるが、「日本人を理解する」という部分で重複する部分が多く、また理解度によっていくつかの段階があることが示された。韓国人交換留学生は日本社会については「ルールが守られている社会」、「安心できる社会」、日本人については「親切で優しい人」、「個人行動を好む人」として捉えていることが分かった。東南アジア出身交換留学生は「日本は上下関係が厳しい」、「日本人は時間に厳しい」等の先行研究と共通する点が見られたほか、「アルバイト先で日本語を笑われ嫌な思いをした」のように個人的体験に基づく異文化観が見られた。日本在住留学生は、個々の留学生が抱える異文化適応に関する問題に対し、先行研究の枠組みではカバーしきれない個別の問題を可視化できることが示された。

(3) サブカルチャーを通しての異文化理解

サブカルチャーを通しての異文化理解では、東南アジア出身留学生はサブカルチャーをアニメ・マンガに代表される若者文化からだけではなく、伝統文化や日常の習慣までを含めた広い視野から捉えていることが分かった。中国出身留学生は日本のサブカルチャーと若者文化を同類のものとして捉え、サブカルチャー・若者文化から流行が産み出されると考えており、サブカルチャーの中でも特に漫画やアニメが日本語学習や日本留学の動機になっていることが示唆された。欧米出身留学生は、日本のサブカルチャーは欧米文化とは異なるユニークさを持っており、全体的にポジティブな印象を持っていることが分かった。

(4) アルバイトからみた異文化理解

アルバイトからみた異文化理解では、インドネシア出身留学生は日本人に対して「優しい」というイメージを持っている反面、日本人に見た目で判断され好奇の目で見られることへの嫌悪感を抱いている態度構造が見られ、アルバイトを通して両国の違いや日本社会への理解を深めるきっかけになったことが窺えた。東南アジア交換留学生は日本語に対する不安を感じており、働くという経験を通して厳しさや忙しさを知ったことやアルバイト体験を「いい経験」として捉えていることが分かった。韓国人留学生は日本人は周りの雰囲気重視し上司の指示通りに仕事をしていることや日本人の仕事が遅いことに対してはネガティブな評価をしており、日本人の仕事に対するイメージは実体験に基づいているものが多く、マスメディア、インターネット、他人から聞いた話に基づくものも見られた。

(5) オンライン授業及びオンライン研修を通しての異文化理解

オンライン授業及びオンライン研修を通しての異文化理解では、日本在住の中国人留学生は「礼儀正しい日本人」、「決まりを忠実に守る日本人」、「親切で優しい日本人」、

「自己主張をせず曖昧な行動を取る日本人」、「アニメの国」、「清潔で綺麗好きな日本人」等、先行研究と類似した対日観が見られた。

(6) COVID-19 感染拡大下における異文化理解

COVID-19 感染拡大下における異文化理解では、行動制限下での留学生に対するサポート体制の構築は数年単位で考えていくべき課題であることや感染拡大下において各自ができる範囲で対処しながら生活を送ろうとしている様子が窺えた。本国でオンライン授業を受けている交換留学生は、メディアや授業などからの情報、現地での日本人との限られた交流が対日観を形成する主な要因であることが示され、日本で学習・研究と日常生活を送った留学生の対日観とは対照的であることが示された。

4-2 . 日本人の異文化理解

(1) 海外留学観からみた異文化理解

韓国留学中の日本人学生は留学当初の1回目の調査では、「人と人との距離が近い」「一人で行動(ご飯)しにくい」「酒文化」という項目が共通して挙げられ、「人と人との距離が近い」に関しては、驚くがプラスに捉え、「一人で行動(ご飯)しにくい」「酒文化」に関してはマイナスに捉えていた。留学中の2回目の調査では、特に「韓国に慣れた」という特徴が強く窺えたが、帰国直前に行った3回目の調査では、2回目からあまり変化がなく、韓国に慣れて日韓の違いを意識しなくなったことが示された。日本人交換留学生は、留学により留学先の国民性を具体的にイメージするようになり、留学により留学生自身の視野の拡大や思考の深化が見られ、より客観的な自己分析ができるようになることが示唆された。

(2) 外国のサブカルチャーを通しての異文化理解

日本人韓国留学生の韓国のサブカルチャーを通しての異文化理解では、1回目の調査では、「K-pop」、「美容」、「韓国コスメ」、「カフェ」、「お酒」が共通して挙げられ、これらほぼ全てがプラスに捉えられていた。帰国直前に行った2回目の調査では、K-pop や音楽番組に関するイメージが、留学生活を通して追加及び強化される傾向があることが窺えた。

(3) 外国観からみた異文化理解

日本人交換留学生の韓国観からみた異文化理解では、共通したイメージとして、「学歴社会」、「上下関係が厳しい」といったイメージや、「軍隊」、「兵役」等の日本にはない制度に対するイメージなどが挙げられた。また、これらのイメージは渡韓前に持っていたものが多いが、留学中の体験を通してイメージが強化されたケースや、韓国での生活を通して新しく生まれたイメージがあることが分かった。韓国に長期滞在する日本人は、自身が置かれている環境および現地人との接触がイメージ構造に影響することが分かった。

(4) オンライン授業及びオンライン研修を通しての異文化理解

オンライン韓国語研修に参加した日本人学生は韓国について、美容や外見に関わるイメージと食べ物に関わるイメージは主にテレビや YouTube などの動画コンテンツ、Instagram や Twitter などの SNS、韓国の学生との話や交流から生まれていた。韓国の学生との話や交流により生まれたイメージは、ほとんどがプラスのイメージで捉えられており、オンラインによる韓国人学生との交流が大きな役割を果たしていることが明らかになった。日本人大学生はオンラインでの韓国語研修において、「交流が楽しい」「不安(緊張)」「韓国語は難しい」という3つのイメージが共通して挙げられた。

(5) COVID-19 感染拡大下における異文化理解

COVID-19 感染拡大下における異文化理解では、韓国留学中の日本人学生は COVID-19 流行という環境下でも韓国に身を置くことで、日本では得難い経験や学びができたと考えており、オンライン授業については、対面授業に比べて集中力の低下など不便な点が挙げられた。

以上、本研究では外国人と日本人を対象に異文化相互理解について PAC 分析を用いて質的に検討した。外国人の異文化理解においては、次の点は特徴的な点として挙げられる。日本人学生は外国人との交流に消極的だが、外国人に親切で困った時には助けられるという複雑な日本人像を有しており、来日前に抱いていた自然災害、異なる環境へ適応の問題、言葉や文化の違いによる不安などが来日後に解消される様子が窺えた。また、異文化理解においては、先行研究と共通するものが見られる一方で、先行研究の枠組みではカバーしきれない個別の問題を可視化できることが示された。さらに、サブカルチャーの中でも特に漫画やアニメが日本語学習や日本留学の動機になっていることが示唆された。アルバイトからみた異文化理解では、日本人に見た目で判断され好奇の目で見られることへの嫌悪感を抱いている態度構造が見られた。COVID-19 感染拡大下の来日前の交換留学生は、メディアや授業などからの情報、現地での日本人との限られた交流が対日観を形成する主な要因であると考えられ、来日後に日本で学習・研究と日常生活を送った留学生とは対照的であった。

日本人の異文化理解においては次の点は特徴的な点として挙げられる。海外留学観からは留学生生活が長くなるにつれて現地の生活に慣れて日本と現地の違いを意識しなくなり、留学により留学生自身の視野の拡大や思考の深化が見られ、より客観的な自己分析ができるようになることが示唆された。日本人交換留学生の韓国観では「軍隊」「兵役」等の日本にはない制度に対するイメージが共通したイメージとして見られ、留学中の体験を通してそれらのイメージが強化される様子が見られた。また、韓国に長期滞在する日本人は、自身が置かれている環境および現地人との接触がイメージ構造に影響することが示唆された。また、オンラインによる韓国人学生との交流が大きな役割を果たしていることや COVID-19 流行という環境下でも韓国に身を置くことで、日本では得難い経験や学びができたと考えている様子が窺えた。

以上のように、本研究では外国人と日本人双方の異文化理解について質的に多角的に捉え、異文化相互理解の一端を解明することができたと考える。本研究によって得られた外国人及び日本人双方の異文化理解に関する知見は、「個人」「学校」「地域」における異文化コミュニケーション・トレーニング実践のための基礎資料として活用できると考える。

引用文献

内藤哲雄(2002)『PAC 分析実施法入門：「個」を科学する新技法への招待(改訂版)』ナカニシヤ出版

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計27件（うち査読付論文 25件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 石鍋浩・安龍洙	4. 巻 6
2. 論文標題 COVID-19感染拡大下における交換留学生の対日観の質的検討： オンライン授業の課題	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 グローバル教育研究	6. 最初と最後の頁 23,36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高柳有希・安龍洙	4. 巻 6
2. 論文標題 日本人大学生はオンラインでの韓国語研修をどのように捉えているか	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 グローバル教育研究	6. 最初と最後の頁 1,10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高柳 有希・安 龍洙	4. 巻 55
2. 論文標題 日本と韓国の大学生はコロナ過における大学生活をどのように捉えているか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大学教育研究	6. 最初と最後の頁 109, 123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石鍋浩・安龍洙	4. 巻 5
2. 論文標題 COVID-19 感染拡大下における留学生の大学生活について PAC 分析を用いた質的研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 グローバル教育研究	6. 最初と最後の頁 95, 106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石鍋浩・安龍洙	4. 巻 19
2. 論文標題 介護学生による高齢者虐待に対する認識に関する PAC 分析を用いた質的検討 留学生と日本人学生の比較	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 59, 73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石鍋 浩, 安 龍洙	4. 巻 18
2. 論文標題 介護専攻学生の専門領域学習観に関するPAC分析を用いた質的検討 留学生と日本人学生の比較	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東大阪大学・東大阪短期大学部教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 27,40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安龍洙	4. 巻 4
2. 論文標題 韓国人留学生はアルバイトを通して日本をどう理解しているか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 グローバル教育研究	6. 最初と最後の頁 27,38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木 香代子, 安 龍洙	4. 巻 4
2. 論文標題 東南アジア交換留学生のアルバイトを通じてみた日本	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 グローバル教育研究	6. 最初と最後の頁 15,26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石鍋 浩, 安 龍洙	4. 巻 4
2. 論文標題 日本在住留学生の異文化適応に関するPAC分析を用いた質的研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 グローバル教育研究	6. 最初と最後の頁 47,60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田 勇一, 安 龍洙	4. 巻 4
2. 論文標題 インドネシア出身留学生は日本でアルバイトを通して日本をどう捉えているか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 グローバル教育研究	6. 最初と最後の頁 155,168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高柳 有希, 安 龍洙	4. 巻 4
2. 論文標題 COVID-19が韓国留学中の日本人学生の留学生活に及ぼす影響の一考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 グローバル教育研究	6. 最初と最後の頁 107,118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安龍洙	4. 巻 3
2. 論文標題 欧米出身留学生の日本のサブカルチャー観について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 グローバル教育研究	6. 最初と最後の頁 1,12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木香代子・安龍洙	4. 巻 3
2. 論文標題 日本人交換留学生の韓国に対するイメージと其の変化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 グローバル教育研究	6. 最初と最後の頁 13,28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高柳有希・安龍洙	4. 巻 3
2. 論文標題 日本人韓国留学生は韓国のサブカルチャーを通して韓国をどう捉えているか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 グローバル教育研究	6. 最初と最後の頁 135,144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田勇一・安龍洙	4. 巻 3
2. 論文標題 日本人交換留学生は海外への交換留学をどのようにとらえているか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 グローバル教育研究	6. 最初と最後の頁 81,98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石鍋浩・安龍洙・高柳有希	4. 巻 3
2. 論文標題 韓国に長期滞在する日本人による韓国観の態度構造：PAC分析を用いた研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 グローバル教育研究	6. 最初と最後の頁 53,65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安龍洙	4. 巻 2
2. 論文標題 日本社会における韓国出身交換留学生の異文化理解に関する一考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 グローバル教育研究	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高柳有希・安龍洙	4. 巻 2
2. 論文標題 日本人学生の韓国留学観に関する一考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 グローバル教育研究	6. 最初と最後の頁 91-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木香代子・安龍洙	4. 巻 2
2. 論文標題 中国人短期留学生の日本留学観に関する一考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 グローバル教育研究	6. 最初と最後の頁 13-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田勇一・安龍洙	4. 巻 2
2. 論文標題 中国出身留学生は日本のサブカルチャーを通して日本をどう捉えているか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 グローバル教育研究	6. 最初と最後の頁 73-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石鍋浩・安龍洙	4. 巻 2
2. 論文標題 東南アジア出身留学生は日本のサブカルチャーを通して日本をどう捉えているか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 グローバル教育研究	6. 最初と最後の頁 59-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安龍洙	4. 巻 20
2. 論文標題 国費留学生の日本留学観の変化に関する一考察 - 日韓プログラム14期生を対象にした4年間の追跡調査から -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 グローバル教育研究	6. 最初と最後の頁 97-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安龍洙	4. 巻 20
2. 論文標題 国費留学生の日本留学観の変化に関する一考察 - 日韓プログラム14期生を対象にした4年間の追跡調査から -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 留学生交流・指導研究	6. 最初と最後の頁 97-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安龍洙	4. 巻 1
2. 論文標題 東欧出身短期留学生の日本留学観に関する一考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 グローバル教育研究	6. 最初と最後の頁 1,12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青木香代子・安龍洙	4. 巻 1
2. 論文標題 日本社会における東南アジア出身交換留学生の異文化理解に関する一考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 グローバル教育研究	6. 最初と最後の頁 13,28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田勇一・安龍洙	4. 巻 1
2. 論文標題 日本社会における中国人交換留学生の異文化理解に関する一考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 グローバル教育研究	6. 最初と最後の頁 69,84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石鍋浩・安龍洙	4. 巻 1
2. 論文標題 日本社会における英語圏交換留学生の異文化理解に関する一考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 グローバル教育研究	6. 最初と最後の頁 57,68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 安龍洙
2. 発表標題 日本で学ぶ留学生の日本のポップカルチャーのとらえ方について
3. 学会等名 (ブルガリア)ソフィア大学・(日本)国際交流基金 国際カンファレンス「Pop-culture and Youth in Japan and Bulgaria」(招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	内藤 哲雄 (Naito Tetsuo) (20172249)	明治学院大学・国際平和研究所・研究員 (32683)	
研究分担者	石鍋 浩 (Ishinabe Hiroshsi) (90424051)	東大阪大学短期大学部・その他部局等・教授 (44432)	
研究分担者	松田 勇一 (Matsuda Yuichi) (50406279)	宇都宮共和大学・シティライフ学部・教授 (32207)	
研究分担者	青木 香代子 (Aoki Kayoko) (00793978)	茨城大学・全学教育機構・准教授 (12101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------